

平成22年度企画事業

青少年体験活動フォーラム in 大洲

実体験の重要性やボランティアの大切さについて学び、長期集団宿泊体験学習の先進的な取組を知ることができました。
参加者同士のネットワーク作りができました。

1. 事業実施までの経緯

平成20年度までは全国大会を開催していたが、平成21年度より全国6ブロック（北海道・東北、関東周辺、中部・北陸、近畿・四国、中国、九州・沖縄）で、青少年の体験活動に関する「青少年教育施設職員、教育行政関係者、青少年団体関係者、学校教員、自然学校といった民間教育団体関係者等」が一堂に会するフォーラムを開催することとなった。昨年度は曾爾青少年自然の家で、片山右京氏の講演をはじめ、地元小学校の自然体験活動の取組やブロック4施設の発表などで情報交換を行った。今年度も、講演・講義、事例発表を実施し、事業の成果を普及するとともに、団体間の情報の交換・交流を行い、ネットワークを拡げるために本事業を企画実施した。

2. ねらい

青少年体験活動の関係者が一同に会し、青少年の体験活動に関する事例研修や情報交換等を行い、今後の青少年の体験活動の充実を図る。

3. 主催 国立大洲青少年交流の家

4. 共催 国立曾爾青少年自然の家 国立淡路青少年交流の家 国立室戸青少年自然の家

5. 後援 愛媛県教育委員会・大洲市教育委員会
香川県教育委員会・高知県教育委員会・徳島県教育委員会

6. 期 日 平成23年1月15日（土）～16日（日）

7. 場 所 国立大洲青少年交流の家

8. 参加人数 210名（募集人員120名）

9. 講師 藤岡 弘、氏（俳優・武道家）
荒木 俊夫 氏（武蔵野市立第三小学校校長）

10. 日 程

1/15 (土)	14:00		14:20:14:40	16:10		16:30	17:30		18:30
	受 付	開 会 行 事	記念講演 「冒険、真剣、実体験！～青少年 の未来のために今できること～」 藤岡 弘、氏	休 憩	講 義	「セカンドスクールで子 どもが変わる！」 荒木 俊夫 氏	休 憩	ディナー ミーティ ング	

1/16 (日)	8:30		9:20		10:10		11:50			12:10
	事例発表①分科会A 「室戸ボランティアリーダー の取組を通して」 発表者：国立室戸青少年自然 の家ボランティア		ボランティア交流会 進行：橋田 年弘 (大洲)		事例発表③ 「ふれあいワークキャン プ事業報告」 発表者：西河 拓郎 (大 洲)		全 体 会	閉 会 行 事	解 散 ・ 昼 食	
事例発表①分科会B 「子どもの体験を支える」 -学校支援地域本部と伝統文 化継承の事業から- 発表者：遠藤 敏朗 氏		事例発表② 「ODAの木自然学校」 発表者：高本 師津雄 氏								

11. 活動内容

<1月15日(土)>

・記念講演

記念講演に先立ち、藤岡弘、氏の活動DVDを視聴した後、黒のレザージャケットに身を包んだ藤岡氏が登場し、独特の雰囲気とバリトンボイスで聴講者をぐっと引きつけた。テレビ番組「藤岡弘、探検隊」での隊員たちの命に対する心情の変化や、自身が理事を務めるボランティア団体の活動における体験など、実体験に基づく話題が多く、聴講者も納得の様子であった。氏は、自ら実践して体験した中で「自分にはこんなことができる」、「人には無限の可能性がある」という自己発見の感動を味わえるようにしてほしいと訴えていた。また、子どもとの接し方について、マニュアル通りでなく、愛を持って接することが大切であるとも述べた。さらに、人の痛みがわかる人間を育てるために、痛みや悲しみを伴う感動のある人間教育や感性を目覚めさせる教育の実践が必要とも述べ、一緒に聴講した、大洲市PTA教育懇談会参加者の学校教育関係者にも様々な体験活動の必要性を伝えることができた。



・講義

武蔵野市では全小学校でセカンドスクールに取り組んでいる。小学校は6～9泊（中学校は4泊）で長期宿泊体験を行っており、現在までの経緯や指導体制、実施地選定等についての説明があった。スライドの他、テレビで取り上げられたときの映像も交えながらの説明に、農山村での子どもたちの活動の様子や心情の変化がよくわかった。また、セカンドスクールの成果として、全国学力調査でも優秀な成績を収めている他、人間関係の向上や感謝の気持ちが育つ、荒れない成人式を迎えるなど、豊富な体験活動が人間としての成長に有効であることがよくわかった。



< 1月15日(土) >

・事例発表①

分科会Aでは、室戸ボランティアリーダーから、組織や活動についてや、1年間の集大成の事業として位置づけられているリーダー自主企画事業についての説明があった。リーダーが主体となって立案・実施を行うものであり、そこでリーダーとして学んだことを生かすとともに、活躍の場としても重要であることがわかった。また、大学との連携で上級生が抜けても新しく1回生が入るという仕組みが、安定したボランティア活動につながっていることもわかった。



分科会Bでは、ODAの木協会の取組についての発表があり、小田深山の豊かな自然を活用した宿泊型の自然学校、内子わくわく体験（子ども農山漁村交流体験）の他、林業体験を通じた生命の水を育む森林づくりや、小規模林業のすすめなど地域資源を生かした活動が紹介された。また、参加者全員にタラヨウ（別名：手紙の木）の葉が配られ、かつて紙がないときに、文字を書いたという話を聞いて、実際に葉の裏に文字を書いてそれを体験することができた。



・ボランティア交流会

先ほどの室戸ボランティアリーダー以外の3施設の登録ボランティアから各施設でのボランティア活動についての発表があった。活動状況の他、課題や悩みなどについても話し合うことができた。そこでは人員の確保が難しかったり、活動する人が決まっていたりするなど、新しい人材の育成が課題として浮かび上がった。室戸ボランティアリーダーのように大学と連携し、常に新しい人材が入ってくるような仕組み作りが必要であると感じた。



・事例発表②

「子どもの体験を支える」と題して学校支援地域本部事業と伝統文化継承の事業についての発表があった。不二峰小学校では、学校支援ボランティアとして地域の方が子どもたちの健全育成を目指して活動しており、環境整備・地域交流支援の他、授業以外の学習支援の中で子どもたちの多様な体験活動の支援を行っている。さらに学校支援をすることで地域の活性化にもつながっているとの報告があった。



・事例発表③

大洲青少年交流の家職員から、ふれあいワークキャンプの取組についての事例報告があった。
(詳細については本誌40ページを参照)



全体会では、助言者として昨日講義を担当した荒木俊夫氏から「目的をしっかりとって取り組む」「アンケートの数字ばかりを追わない」「成長を長い目で見る」など、2日間を総括した話があった。自然体験活動における様々な体験の重要性を再確認し、青少年体験活動の関係者として何をすべきか考えるよい機会となった。

12. 参加者の声

参加者の事後アンケート結果

* 満足：71% * やや満足：29% * やや不満：0% * 不満：0%

- 藤岡氏の講演、非常によかったです。
- ボランティア交流の時間がもう少しあればよかったかなと思う。もう少し各施設の活動報告が聞きたかった。
- リーダー同士の交流や意見交換ができたのでよかった。自分たちの自然の家に帰って生かしていきたい。
- いろんな活動の現状を見聞して、ボランティア精神を養う仕事をされている人がいて、種をまく仕事は大変でしょうが、受けたボランティアに対して、きっとその人は一生のうちに何かを子どもに残してくれるものだと確信しました。
- 体験の重要性、必要性を痛感した。認識はあるがとっかかりができないのではないかな。少しでも多くの子どもの体験をさせてあげたい。

13. 成果と課題

大洲市のPTA教育懇談会の参加者にも記念講演を聴講できるようにと日程を調整し、多くの学校関係者にも長期集団宿泊体験等の体験活動の先進的な取組を聞いてもらうことができた。今後、地域体験活動を推進する上で、プログラムや手法を広く学ぶことができたと思う。また、参加者同士のネットワーク作りができた。

広範囲なので日程的に厳しく、多くの方に参加してもらえるよう、開催場所を検討する必要がある。